

### 第三支部医療通訳研修終了報告

7月12日(火) 大阪大学吹田キャンパス 人間科学研究科 本館32講義室にて、大阪大学大学院人間科学研究科、国際協力学専攻教授 医療通訳士協議会 会長でいらっしゃいます 中村安秀先生(小児科)に「外国人が安心して受信できる病院」——医療通訳という仕事の重要性——についての御講義をいただきました。参加申し込み者17名(内当日欠席2名)で、医療に携わられている先生方からの、また海外からの渡航者患者を含めすべての関係者が必要とする、言葉の違いから起こるトラブルを防ぐための医療通訳士の存在の重要性を再認識させていただきました。

私達通訳案内士の立場から、渡航者患者の皆様はどう対応させていただけばよいのか、そこまで緊急ではない皆様にはどうおもてなしを?の答えを医療を提供なさる側に求める方にしか考えが及んでいませんでしたが、医療現場で必要とされる通訳、緊急渡航患者の方々のそれまでの経過を含めた何を?どう?先生方医療関係者の方々にお伝えするべきなのか、患者の皆様々の立場に立って、医療関係者の先生方にバトンタッチさせていただく際に医療側ではどういう情報を必要とされるのか等、常日頃から念頭に置いて、関係者皆様にとって最良の対応を目指す事の大切さを痛感いたしました。具体的に必要な情報提供項目として、医薬品情報、基本情報、現病歴、既往症等を挙げていただき正確な通訳、的確な対処のためにこれからはもちろん、さらに広く、深く、真摯に学ばせていただきたいと思いました。通訳案内士の業務中に必要な医療通訳から、医療通訳士としての専門分野を追求し、病歴、主訴、診断告知、治療方針などの正確な説明、手術やがん告知などのインフォームド・コンセントを実施し、実際に役立つ通訳への道のりの険しさと、厳しさ、難しさ、それを越えての必要性、重要性も考えさせていただきました。

◇ ことばと文化の壁を超えるインバウンド医療(中村先生ご執筆)

◇ LOST WITHOUT TRANSLATION -日本の病院で悪戦苦闘する外国人たち-

(Julia Puebla Fortier, 小笠原理恵 JAMI 事務局長、共作、中村先生御監修) 等の資料ご提供に感謝。中村先生のご講義の後には現在大阪大学保健学専攻博士後期課程3回生で、保健師、看護師、精神保健福祉士、そして通訳案内士(英語)として 健康科学、医療通訳などを勉強中の岡田忠夫様には、日本人の長寿について、日本の進んだ医療、熱中症防止法等、我々に身近なテーマについても資料配布、いくつかの項目をご説明いただきました。2時間半が、あっという間に過ぎてしまい、また次会を心待ちにさせていただきたいという思いを残して終了いたしました。

OP:医療通訳研修のOPとして、阪大吹田キャンパスに隣接する万博公園を散策しました。大阪万博の跡地を整備した公園で、「自然文化園」と「日本庭園」の二つのエリアの内、ハスの花が見頃の日本庭園を中心に、散策、竹林、自然文化園を通過して、隣接する阪大の敷地に入り、カフェテリアで30分ほど歓談して医療通訳研修会場へと向かいました。

御多忙中にも関わりませず御快くJGA第三支部医療通訳研修のためにご協力、ご参加いただきました皆様には心から感謝いたします。

一般社団法人 日本観光通訳協会 常務理事 藤尾多恵子  
運営委員 東野曜子